



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報



第43期第3号

2024年1月26日

発行者:小泉基

「"たすけあい"を響かせる」

小泉 基



おめでとうとも言い難い厳しい一年の幕開けとなりました。神さまの計画は計り知れず、能登においても、ガザにおいても、ウクライナにおいても、わたしたちは問いばかりを口にしたいくなります。神さまは問いかけを赦してくださいますから、わたしたちが祈りの中で問いを通して神さまと対話していくことは、神さまと誠実に向きあうひとつの方法であろうと思います。けれども、神さまはわたしたち

ちがその問いに留まってしまうことは望んではおられないと思います。たとえわたしたちの力が小さく、能登やガザの目を覆いたくなるような状況を前に、なんの改善のための手立ても講じられないと感じてしまうのだとしても、そこから一步を踏み出していくことが、神さまのご計画なのだろうと思うのです。

昨秋、教区の「秋の集い」を開催いたしました。昨年度の教区の主題が「神と人に仕えるわたしたち」でありましたから、オンラインで江口再起先生にご登場いただき、「響き合う人生 ～聖書とルターに学ぶディアコニア～」というテーマでご講演いただきました。とても励ましに満ちた講演で、全国で一番小さな教区に属する小さなわたしたちにも、希望を抱かせてくださるお話でした。江口先生の講演のキーワードのひとつが「たすけあい」という言葉でした。キリストが活動と言葉で伝えてくださったことは、つまるところ互いに愛しあい、仕えあいなさいということなのだけでも、教会はどうしても「教会内言語」に頼ってしまいがちになる。「ディアコニア」という単語は、一般社会においてはまったく通じないし、「仕える」「奉仕」「愛」という言葉も、どちらかという教会用語として少し使い古されてしまっている感がある。あらためて世の中におわりやすい「助ける」「助けあう」という言葉に帰っていてもよいのではないか、というお話もして下さったのでした。

教区常議員会では、新年度の主題や活動について話しあう中で、昨年度にテーマとしてきたディアコニアへの関心を、今年も継続して考えていこうと話しています。わたしたちが世の厳しさの中でそこに留まってしまうのではなく、そこから一步を踏み出していくことが出来るように、江口先生のご助言も参考にしながら、今年は秋頃に、ひさしぶりに対面で集まることを計画できないか、と相談しています。ぜひ今年も教区の取り組みにご注目下さい。

各教会の近況報告

【函館教会】 中島 和喜

10/29(日)宗教改革記念主日の礼拝にて、木下結愛さんの堅信式が執り行われました。小学5年生ながらこども礼拝でも話をよく聞き、主日の礼拝でも初めて来られた方には真っ先に案内して説明してくれる結愛さんです。この純粹さをそのままに豊かな信仰生活が守られますよう祈ると共に、教会の元気印な結愛さんの堅信という出来事に礼拝堂は嬉しさで包まれました。11/19(日)にはこども祝福式が行われ4名のお子さんがいらして下さいました。キャンディレイを渡し、礼拝後にはお茶会をして盛り上がりました。



12月24日(日)の降誕祭礼拝で紺野剛克さんの洗礼式が執り行われ、礼拝後には祝会が行われました。紺野さん十数年悩んだ末にようやく教会に導かれ、そして洗礼へと導かれた方であり、葛藤の末にある言葉から非常に豊かな信仰が語られ、教会員の信仰もまた強められるひと時だったように思います。24日の夜にはキャンドルサービスも行われました。遠距離牧会ということでクリスマスの日程はどうなることかと思っていましたが、今年は幸いなことに日曜日が24日だったため、特に問題なく行われたことは非常に幸いなことでした。1/7(日)の礼拝後にはお汁粉会が開かれ、一年の始まりをおいしいお汁粉を囲みながら和やかな空気の中で過ごすことができました。

【恵み野教会】 中島 和喜



11/4(土)全聖徒主日には先に天に召された方々を覚えるとともに、礼拝後には食事会を開き今与えられている豊かな交わりがあることを分かち合いました。11/18(土)昨年に続きこども祝福式が行われ、今年は2名のこどもが参加してくれました。11/25(土)4年近く開けなかったうどんそば食堂が再開され、様々な出来事が回復していく喜びに包まれました。12/16(土)これも4年ぶりとなるクリスマスフェスタが開かれました。地域の方々に歌や演奏など様々な賜物を披露していただき、また教会でもミニバザーを開き賑やかな

ひと時となりました。12/22(金)今年からイブ礼拝が平日に行われることとなったため、例年の15時からに加え19時からも礼拝を行うことにしました。夜の礼拝に参加された方が次の日の降誕祭礼拝にも来てくださり、み言葉の種が蒔かれていく喜びを分かち合いました。12/23(土)降誕祭礼拝後、持ち寄りでの祝会が開かれ、嬉しい時間が増え豊かなクリスマスになったと思います。

4月から毎週聖餐式をし、またコロナの制限が解かれたことで食事を囲む機会も増え、11-12月はたくさんの食卓を囲む機会が与えられ、いかに食卓を囲むことが嬉しいことであるかを再確認する一年になったように思います。12月には外壁工事も完了し、教会の外側はとても綺麗になりました。そして、一歩中に入ればそこにもまた嬉しい交わりが与えられる。地域にある教会として、これからも主の光を世に示す場所になればと思います。



昨秋以降の札幌教会について、思いっくままにご報告してまいりましょう。■10/31.宗教改革記念日、NRK 札幌中央教会にて合同記念礼拝が催されました。両教派から42名の参加者が集い、み言葉と聖餐をわかちあう恵みに与りました。■11/4.5は3つの礼拝堂でそれぞれに召天者記念礼拝が守られました。特に札幌礼拝堂では召天者のお写真

真を飾るボードがいっぱいになりつつあり、天の礼拝の賑やかさを思わせられました。

■11/12の札幌礼拝堂での子ども祝福礼拝は、今年は主日礼拝の中で行いました。たくさん子どもたちがひとりひとり名前を呼んでもらって、祝福と記念のスプーンを受け取りました。■11/18.札幌北礼拝堂での礼拝後、壮年会主催のピンポン大会が開催されました。往年の青年たちが直径4cmの白球を追って右往左往。ひとときの”青春”を謳歌しました。■秋口からほぼ毎週のペースで式文歌唱の練習を続けて、また礼拝と式文についての学びを各礼拝堂で4回ずつ開催し、12/2.3の待降節第1主日の礼拝をもって、ついに新しい式文の使用がはじまりました。30年続けて来た礼拝の形式が変更されたわけですから、まだまだ戸惑いの中にありますけれども、少しずつ慣れてきて、気持ちを込めて新しい礼拝の言葉を味わうことができるようになればと願います。また札幌礼拝堂では、配餐形式を聖卓型に改めました。80数年続けられてきた跪座での配餐を懐かしむ声もありますが、このタイミングで礼拝の神学の新しい流れに沿う形となりました。



■12月初頭、札幌礼拝堂とめばえ幼稚園を会場に、婦人会メンバーを中心に、クリスマスクッキー作りが行われました。教会学校の子もたちと3礼拝堂のクリスマスに集う方々にプレゼントとして配布するためです。生地をこね、型を抜き、焼き上げ、飾りをつけ、袋詰めしてシールを貼る、という一連の作業のために、教会や幼稚園のお母さん方にも呼びかけて協力者を募り、無事二百数十枚を完成させました。もちろんみなさんに大好評でした。■12/4.高橋和子さんが召天されました。桑園幼稚園などで幼児教育をになってこられた大先輩でした。教会で前夜式・葬儀が行われ、その日のうちに平岸教会墓地に納骨されました。■12/8.その翌週、コロナ前まで札幌礼拝堂で礼拝生活を共にしてきた相川勝さんが天に召されました。教会員であったお母さまの葬儀の後、礼拝をともにしてきた信仰の仲間でした。■12/23.札幌北礼拝堂のクリスマスでは、降誕祭の礼拝後に、持ちよりの愛餐による祝会が行われました。シニアサロン+αの方々によるミュージックベルの演奏や、松山敏さんと井上志乃さんによるサクソフォン&電子ピアノの演奏、楽しい歌のゲームなど、音楽にあふれた祝会でした。■12/24.教会学校のクリスマス礼拝には、大人と子どもあわせて70名を超える参加があり、礼拝堂がいっぱいになりました。絵本を使った礼拝の後、スタッフの工夫による“歌って踊る”祝会で礼拝堂に笑顔があふれました。民族衣装をまとった先生方がはりきって子どもたちをリードしながら、みんなでフォークダンスを踊

新札幌礼拝堂



りました。■12/24.札幌礼拝堂のクリスマス礼拝では、この日のために日笠山牧師と準備を重ねてこられた長堀健人さんの洗礼式と、大岡山教会から転会してこられた鈴木友洋さんの転入式が行われました。礼拝後には、サンドイッチのお弁当と楽しいクイズ大会で、ひさびさに食卓を囲んだ祝会が行われ、“若い教会員”を心から歓迎しました。■12/24.新札幌礼拝堂では佐久間三恵子さんの転入式が行われ

ました。夫の忍さんは当日体調を崩されて欠席されましたが、同時に現住復帰の祈りを行いました。新札幌教会が設立された頃の教会員の復帰に一同おかえりなさいの心持です。また、祝会には久しぶりの方もお残り下さり、お弁当に舌鼓を打ちながら有志によるミュージックベル演奏、ビンゴゲームなど笑いの絶えないひと時をすごしました。午後からは寄せ書きをもって施設に入所の方を訪問しました。■12/24.今年もクリスマスイブキャンドルサービスが札幌礼拝堂で行われました。今年は日曜日のイブでしたから、例年より早い4時スタートとなり、まだ暮れきらないなかでのイブ礼拝となりましたが、それでも温かなロウソクの光の下で、3礼拝堂がひとつに集ってキリストの降誕を祝いました。■12/26.27.年も押し迫ったこの日、新札幌礼拝堂に待望の自立看板が設置されました。きれいな藤色の看板に教会名と礼拝堂名が白抜き文字で刻まれ、夜も輝くLEDライトも取り付けられました。教会名と福音の存在を明るく照らさし、これからの福音宣教を導いていってくださることと思います。

【帯広教会】

岡田 薫

11月になると十勝豆の申し込みと発送作業が具体的に始まりました。コロナ禍以降、バザーを休止されていた教会もぼちぼちと再開されてきたようで、期日指定でのお申し込みもいくつかありました。けれども猛暑の影響で豆の生育状況が芳しくなく、なかなか入荷してこないで担当役員は気が気でない日々を過ごすことに…。「道東での宣教を覚えて祈っています」「北海道の皆さんに神さまの祝福がありますように」などのコメントが申し込み書などに添えられていることもしばしばで私たちにとって大きな励ましになっています。いくつかのミスもありましたが、卸業者の担当の方も尽力くださり、お互いに補い合いつつ12月末には無事終わることが出来ました。



クリスマスは日程の関係で23日(土)午前帯広での主日礼拝と祝会、午後から浦幌集会のクリスマス礼拝、24日(日)は牧師が札幌での礼拝担当の為教会では何もせず、25日(月)に釧路家庭集会のクリスマス礼拝が行われました。クリスマスイブの日には礼拝が行われなかったことはおそらく初めてのことだったと思いますが、久しぶりに家族との時を過ごされたとも聞いています。道中の安全をお守りくださった主に感謝！

教会総会の準備を終え、2024年も今ある現実の中で“出来ることを、出来る時に、出来るだけ、喜びをもって行う教会”としての歩みを共に進んでまいりましょう。

北海道特別教区 2023 年度主題聖句

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」

「隣人を自分のように愛しなさい。」(マルコ 22:37,39)

11 月 23 日(木/祝)「ディアコニア」をテーマとして「教区秋の集い」が開かれました。始めに小泉牧師から、「なぜ今ディアコニアなのか」と発題をいただき、教区がディアコニアに思いを向けていく意味を確認しました。その後江口再起牧師より「響き合う人生 ～聖書とルターに学ぶディアコニア～」と題して、ディアコニアをルターの神学の中から講義していただきました。今回はその秋の集いの感想と当日資料をお分かちしたいと思います。また、今後の学びの参考になる図書・論考をご紹介します。youtube で当日の講義はいつでも聞けますので、まだ聞いておられない方は右の QR コードからお聞きいただければと思います。



小泉牧師が説明された日本のディアコニアの歴史はわかりやすく、特に 1923 年の関東大震災の時には女性宣教師が活躍されたことについてはもっと詳しく知りたいと思いました。支援活動では女性が団結したと言われていたものね。江口先生のお話はもっと聞いていたかったです。沢山心に響きました。その中から一つを選びます。それは「助けることは特別なことではないから目立つ必要はない。」です。ディアコニアは家庭の中でも教会でも友人間でも当たり前に行われていますが自分と全く関りのない人々へどれだけ心を寄せられるかが私にとっての問題点です。そんな自分の無力と未熟を感じる中で「祈ること」を与えられているのは最上の幸せだと思っています。

ディアコニアについて今迄深く考えたことがなかったので本日は言い知れないほど感動を覚えました。ディアコニアの本質について解り易くお話しして下さい本当にありがとうございました。

聖書のみことばの中でもイエス様のたとえ話しの中にディアコニアの本質が刻まれていると思いました。神様からの恵みの賜物は神さまのものであって、わたしのものではないので神様から感謝して受け取り、ますますみことばを深く学び、味わい、ディアコニアの本質に目覚めさせて頂きながら、少しでもディアコニアの精神で活動出来ますようにと心から祈り求めます。

30 年程前に参加した伝道セミナーで、「教会の問題点を探る」ため KJ 法(問題解決方法の一つ)で意見の集約をしたことがある。その結論は、「ルーテル教会は社会性に欠ける」ということでした。

ディアコニアの働きは、まさにその社会性が問われていると感じました。カトリックの「信仰と行い」を批判したルター(ルター派)が、「信仰のみ」を強調するあまり、行いが軽視され信仰が上で、行いが下という序列を作っていないかと感じています。善い行いは信仰から出てくるとすれば、信仰があれば必ず善い行いに向かっていくと信じます。しかし、江口先生の話から、マックス ウエーバーがプロテスタントにはルター派と改革派の2つの流れがあって、改革派は「私は神様の手足です。道具です」と、能動的にとらえ、ルター派は「私は神様からいただく器(受け皿)です」と受動的に受け止めているという。この受けとめ方がその後の信徒の生き方に影響を与えているのではと感じました。江口先生の講演はとても楽しかった。

○”共に生きる“という言葉が軽々しく使うなということがグサリとききました。

○「愛している」と言ってるだけでなく、助けを必要としている人と「こっそり」共に生きる生き方をしていきたいと思いました。

○“響き合う人生”…とても心に残るメッセージです。これからの信仰に、私自身のテーマにしたいと思います。

○「ディアコニア」という言葉が関心なく長く過ごしてきた自分ですが、意味を深めることが出来て嬉しい時間を共にすることができ感謝です。

○たいした事はできなくても、その人に寄り添うこと、そして響き合うことが大切なのだと教えて頂きました。

○あれこれ思い悩まず、良いと思ったことは自信を持って行動しよう。喜びを持って実践していこうと奮い立たせて頂きました。

○ディアコニアというテーマはよく耳にしながら、今まで学びの場に参加してきませんでした。今回のように、なぜ必要なのかということから考える機会が与えられたことは大変良い時間となりました。ありがとうございます。

○信仰に支えられ、私もあなたと同じという目線を忘れずに一緒に歩いていく。(共に生きる)。理解してあげたい、助けをあげたいから、理解させてください。自分のひび割れている器を癒してください。このような集いの場をありがとうございました。

○西教区、東海教区、老人ホームの解説、乳児園の件とかその歴史も知る事ができ、ディアコニアの意味も知りました。もう一度講座をお聞きしたいです。感謝。

○仕事を止めて出会う人が少なくなった今、家族を始め教会の方達、他の仲間お一人お一人の出会いを大事にし感受性を縮こませないよう、反応でき、助け合えるようにしていきたいと思いました。又聖書の通読を始めようと思います。

北海道特別教区 教区秋の集い
「ルーテル教会におけるディアコニアの取り組み」 発題アウトライン

小泉基

■なぜディアコニアなのか

- ・教区長選任後の教区の取り組みとして、2020年の「祈り」（ハガキで主の祈り展開催）、2021年「み言葉」（愛唱聖句集発行）、2022年「賛美」（愛唱賛美歌人気投票）と取り組みを重ね、教区教職3人体制がはじまり、人件費自給を達成する年ともいえる2023年は、「ディアコニア」を主題とすることに。

■戦前の社会事業

- ・1993年の佐賀教会設立後、1902年に附属幼稚園設立。米国教会婦人会の献金による。
- ・1909年 公益法人 宣教師社団設立 今日のJELAへ
- ・1912年 東京宣教の本格化と社会事業(学生寄宿舎・母の相談所・診療所)
- ・1919年 宣教師会 社会事業の開始を決議。翌年「慈愛園」の働きスタート。米国教会の女性たちが日本での学校運営や社会事業を支援。
- ・1923年 関東大震災とその救援事業。「ベタニアホーム」「東京老人ホーム」として発展
- ・1931年 社会事業が本教会総務局の管轄に。

■戦後の体制づくりと新しい施設

- ・1947年 日本基督教団からの離脱
- ・1950年 憲法規則「本教会および地方教会に属するすべての教育、社会厚生事業の経営、監督、および指導」を担う。常議員会のもとに社会厚生部で取り扱い
- ・1951年 社会福祉事業法制定 事業主体は各法人に。理事派遣と補助金報告書提出

■地域密着型の施設

- ・1970年代から 各地で地方教会の牧師・信徒による小規模事業の誕生
あゆみの家、一粒の麦、光の子会など。
- ・ミッションによる本教会主導の施設と各個教会の牧師信徒設立の施設が併存する形に

■ディアコニア運動の紹介と導入

- ・1950年 婦人伝道師「ディコネス事業開始の件」常議員会
女性宣教師の働きと目され 1966年 ディアコニア委員会の活動へ。
門脇聖子師など
- ・1969年 アスマラ宣言により全国レベルでのディアコニア運動は頓挫。
教区の働きへ。

■教区中心のディアコニア運動へ

- ・各教区が特別協力金により教区自立を果たしつつ、東教区のディアコニアキャンプ、西教区のディアコニアセンター喜望の家、九州教区の慈愛園におけるディアコニアキャンプ、少し遅れて東海教区の東海福祉村「ディアコニア」開設など、ディアコニアは教区を主体とする取り組みへ。
- ・ようやく人件費自給を果たすことになった北海道教区も、このタイミングで、身の丈にあったディアコニアの取り組みを考えたい。
- ・ディアコニアの働きを担う北海道特別教区へ

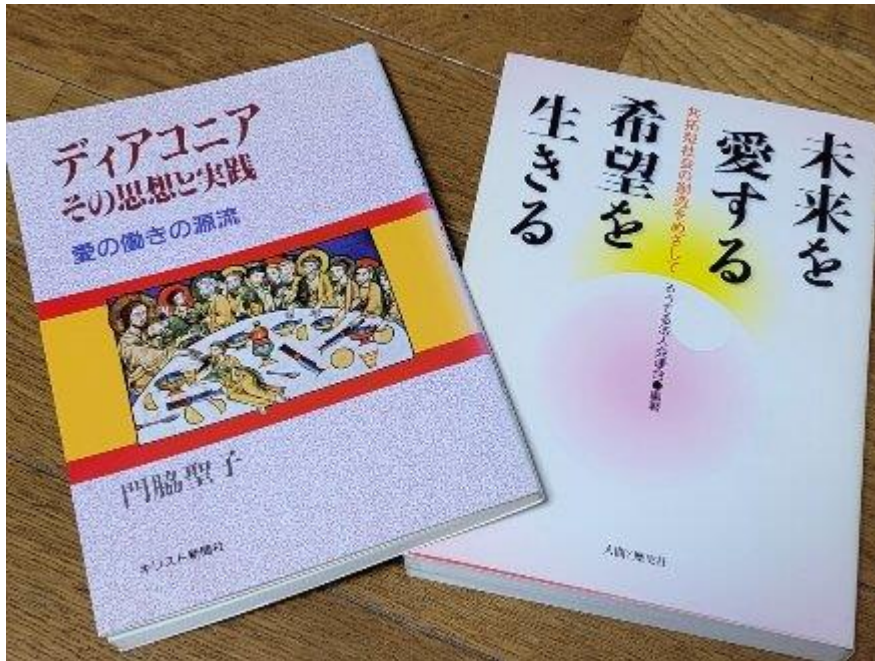
ルーテル教会のディアコニアに関する図書・論考の紹介

■ 書籍

- ・『ディアコニア その思想と実践 愛の働きの源流』（1997 門脇聖子）
－新約時代から現代まで。教会におけるディアコニアの働きを概観する。
- ・『未来を愛する 希望を生きる－共拓型社会の創造をめざして』（2004 るうてる法人会連合編）
－神学校教員らの座談と論考。そしてルーテル系福祉施設の働きを総覧する。

■ 論考

- ・「日本福音ルーテル教会と社会問題との関わり」（1989 古材克成『日本福音ルーテル教会百年史論集第1号』）
- ・「日本福音ルーテル教会のディアコニアの歴史と働き」（1991 門脇聖子『日本福音ルーテル教会百年史論集第4号』）
- ・「日本福音ルーテル教会におけるディアコニア－その需要と変遷」（2006 森本典子『教会と宣教第12号』）



教勢動向

函館教会

堅信：木下結愛(10/29)
受洗：紺野剛克(12/24)

札幌教会

受洗：長堀健人(12/24)
転入：鈴木友洋(大岡山 12/10) 佐久間三恵子(札幌中央 12/10)
転出：仲見洋子(由仁オアシス教会 11/12)
召天：高橋和子(12/4)